

連携医院のご紹介



院長とスタッフの皆さん

医療法人 一陽会 一陽会クリニック

〒731-5133
広島市佐伯区旭園10-3
電話/082-924-0033
院長/碓井 公治
診療科目/内科、腎臓内科(人工透析)



一陽会クリニック



外観



「患者さん一人ひとりの状態に応じたオーダーメイドの透析治療」などを特徴とし、また、ご家族の不安やご負担等も解消できるよう全力でサポートされている、佐伯区旭園にある一陽会クリニックの 碓井 公治 院長にお話を伺いました。

○いつ開業されましたか。

平成8年3月1日です。

○業務内容について教えてください。

一陽会原田病院を母体とした外来通院の人工透析診療を行なうクリニックです。通所リハビリ施設『ディケアあさひ』を併設しています。

○力を入れている事などを教えてください。

それぞれの透析患者さんに適した人工透析を行っています。週3回の血液透析では、午前透析は通常は朝9時開始ですが、朝8時開始のクールも行っています。月・水・金曜日は夜間透析、火・木・土曜日は午後透析を行っています。週4回透析の頻回透析も行っています。また自宅で行う在宅血液透析(週5~6回)を3名の患者さんが行っています。「CAPD+血液透析」ハイブリッドの患者さんもおられます。またオーバーナイト透析(夜8時~翌朝6時)を希望される患者さんは、原田病院にお願いしています。患者さんの身体的、社会的状況に応じた人工透析ができるように努力しております。

○毎日の業務で大切にされている事や、やりがいは?

透析治療はチームプレイです。医師一人では何もできません。看護師、臨床工学技士、事務職、管理栄養士、看護補助者、どの職種が欠けても業務に支障をきたします。私の役割は、職員全員が楽しく円滑に業務出来るように調整することだと思っております。

職員全員が十分に力を発揮すれば最高の透析治療を患者さんに提供できると考えています。

○県病院はどんなところですか。県病院に一言。

開院以来とてもお世話になっております。透析患者さんは合併症を持っておられることが多い、県病院のほぼすべての科に紹介させて頂いています。腎臓内科をはじめ、移植外科には献腎移植登録件数は少ないですが生体腎移植をお願いし、大変お世話になっております。婦人科疾患、乳腺外科にも多くの患者さんを紹介させて頂き通院させて頂いています。また、先月は循環器内科に心筋梗塞の患者さんの紹介でお電話をさせて頂いた際は『すぐに送ってください、湾岸道路でくれば15分で到着します』とアドバイスを頂きました。日ごろのご配慮に感謝申し上げます。



ベッド間のスペースにゆとりがあり、快適に過ごせる透析室

【取材後記】
日頃からスタッフの皆さんに声掛けされ、チームプレイで透析治療を提供されていることがよくわかりました。最後に、取材に同席いただきました手島和子透析室統括科長や多くのスタッフの皆さんと一緒に、すばらしい写真撮影もできました。これからも、よろしくお願いします。

県立広島病院からのお知らせ

募集

4月のがんサロン

開催日 令和4年 4月27日(水)

時間 14:00~15:00

場所 新東棟2階 研修室 及びZOOM参加

テーマ がん療養中の食事
~みんなどうしてる?食べられない時の工夫~

講師 栄養管理科/川崎 育美 管理栄養士

対象 悪性腫瘍(がん)の患者さん及びそのご家族
当院での受診歴は問いません

問合せ先 がん相談支援センター
TEL 082-256-3561 (定元)
※感染状況によりオンラインのみに変更の場合あり

申込専用 hphchiikirenkei@pref.hiroshima.lg.jp

病院ボランティア

県立広島病院では、外来ボランティアとして活動していただける方を募集しています。
あなたの優しさを届けてみませんか。

- 外来開院日(平日)で都合のよい曜日
9:30~16:00
- 診察手続きの説明や補助、
来院者への案内、
誘導、介助、荷物運び、
外来の環境整備(除菌・消毒)など

お問い合わせ 地域連携室 082-256-3562

*オンライン

もみじ



県立広島病院 082-254-1818(代)
〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号



理念: 県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

周術期管理センター

県病プロフェッショナル



薬剤科

◆周術期管理における薬剤師の役割

当院では、患者さんに安全に手術を受けていただき早期回復ができるよう、薬剤師が周術期(手術前・手術中・手術後)に関わっています。

手術の決定

手術前

手術

手術後

退院

手術前

手術の約2週間前に、外来で周術期管理センターの薬剤師による面談をさせていただきます。薬剤師は、病院で処方されているお薬や、服用されている市販のお薬・サプリメント、お薬のアレルギー歴について患者さんにお聞きします。お薬やサプリメントの中には、血を止まりにくくするものや、血栓ができやすくなるものなど、手術前に中止しなければならないものもあります。必要に応じて、かかりつけの病院や薬局とも連携を行います。

入院後は、各病棟の担当薬剤師が持参されたお薬とお薬手帳により、処方の内容を再度確認します。その際、入院前に中止指示のあったお薬が中止できているかの確認も行っています。

手術前~手術後(手術室)

手術室の担当薬剤師は、手術予定の患者さんのアレルギー情報や手術前の血液検査結果などから、患者さんの状態や必要な情報を事前に確認し、手術室スタッフと情報共有しています。また、手術中に使用する医療用麻薬や筋弛緩薬などの薬剤を始め、手術後の抗菌薬などの薬剤の適正使用の管理も行っています。

手術後

手術後は、各病棟の担当薬剤師が医師や看護師などの病棟スタッフと連携し、痛みや吐き気の症状コントロールを行います。痛みや吐き気のコントロールをしっかりと行うことで、早期離床・早期回復を目指しています。また、手術前に一時的に中止となったお薬の再開の確認も行い、退院に向けたサポートを行っています。



薬剤科スタッフです

来院時はお薬手帳をご持参下さい!

お薬手帳は
医療機関ごとに
分けず1冊に
まとめましょう



次ページに続きます

リハビリテーション科



しっかりサポートいたします

手術をされた後、痛みやしんどさで動くことができずに筋力や体力の低下を引き起こすことがあります。また、呼吸がしづらくなったり痰が溜まりやすくなることもあります。このような合併症を予防するためには手術後だけでなく、手術前からのリハビリが重要です。当院では、すい臓の手術と肝臓の手術の一部の方を対象に、入院2週間前にご自宅で行うトレーニングや呼吸の練習方法を説明します。手術後は、お体の状態に合わせて翌日から立ったり歩いたりと、主治医の指示に従ってベッドから離れるところからリハビリを始めます。術後、動いてよいのか不安や心配があると思いますが、リハビリスタッフと看護師がしっかりとサポートさせて頂きます。



麻酔科（手術室）



手術室での麻酔科看護師

手術を受ける患者さん、ご家族にとって不安は計り知れないものと思います。麻酔科外来で手術室看護師は、少しでも不安が軽減され、安心して手術に臨んでいただけるよう、麻酔科医師と共に患者さんの状態を確認し、十分な説明をさせて頂きます。気になること、心配なこと、ご要望は遠慮なくお知らせください。

手術室看護師は多様化する術式に対応できるように、知識、技術の向上に努めています。患者さんに安全な手術が提供でき、早期離床、早期社会復帰できるよう看護に努めてまいります。



歯科・口腔外科



手術前は専門的ケアをします

お口の中には、歯垢1gに数千億個(便と同等、唾液は1億個)程度の細菌がいると言われています。お口は体の入り口です。お口の細菌や毒素が体の中(肺や血液・消化管)に入ることで、誤嚥性肺炎や術後の手術創の感染などを引き起こし、命に関わる可能性があります。

周術期にお口の中を清潔にしておくと、肺炎や手術創の感染リスクなどを下げる効果があります。また、抗がん剤治療や放射線療法を受けられる方は口内炎など副作用の重症化を予防する効果があります。

「周術期管理センター」では、歯科衛生士が歯科医師とともに、手術に当たってお口の中に問題がないかチェックします。必要な方には、処置や全身麻酔(気管チューブ挿入)時の歯の脱落・損傷防止目的のために歯の保護装置を作製する場合もあります。そして、お口の中の細菌を減らすために、歯垢・歯石の除去などの専門的なケアを行い、患者さんのお口の状況に合わせたセルフケアのアドバイス(適切な口腔ケア用品や使用方法など)をさせて頂きます。うがいでは歯垢を除去できません。専門的なケアとセルフケアを両立することで、術後合併症を予防し、早期回復・早期退院に繋がります。



歯科衛生士



主なケア用品

それぞれの科や技師が
チーム一丸となって
患者さんをサポート
いたします！

私たちは、周術期管理センターの一員として健口から健康へのお手伝いをさせて頂きます。

外科医の独り言…

no.126

—コロナ下の癒し—

3月6日をもって、広島県に出されていたまん延防止等重点措置が解除されました。新規感染者数がなかなか減りませんが、措置の解除は、入院患者数が減少し病床のひっ迫が軽減したという判断からのようです。ワクチンの感染予防効果は十分とはいえないませんでしたが、少なくとも重症化の予防効果はありました。今後は、ゼロコロナではなくウィズコロナで生活基盤を築いていくことになり、私たちがどのように適応していくかが課題となりそうです。

となると、溜まつてくるストレスをうまく発散する手段を身につけておかなければなりません。流川で大声を出して歌うことが唯一のストレス発散法だった私にとって、コロナ禍では感染高リスクとなるその行為は、残念ながら人前ではレッドカードです。また、外出自粛で在宅時間が長くなり、自宅で一人飲みをすれば止める人もいないことから飲酒量が増え、アルコール依存に陥る可能性もあります。幸い、私は家で飲むとすぐに眠くなり、ストレスの発散にはなりませんが結果的に早寝早起きとなり、以前より断然健康的な生活を送っています。

一方、このコロナ禍においてストレス解消というより癒しを求めてペットを飼う人が増えているそうです。一般に猫は、犬よりも安価で、散歩に連れ出す必要がないことからも人気が高いようです。わが家では3人の子供を育てている間に、犬1匹と猫3匹を飼って、それぞれ異なる4パターンの癒しを提供してもらっていました。その後、子供3人はわが家から巣立ち、犬1匹(マル)と猫2匹(クリ、ネコちゃん)は天に召されました。わが家に残されたのは私と妻、そして14歳となった老猫チビです。名前はチビですが体重が6kg近くあり(食べさせすぎ)肥満体です。肥満は短命であると獣医さんから指摘され、慌てて与える餌の量を減らしましたが、なかなか痩せません。餌の催促で鳴かれるとつ

いつい与えてしまうので痩せるはずもありません。私だけが多めに餌を与えていたのかと思いきや、餌の量では妻も私に負けていたようです。

しかし、いつも癒しを貰っているチビを早死にさせるわけにはいきません。1日も長く癒してもらいたいのです。私たち夫婦も今後、歳をとっていきますので、別の犬猫を飼って天寿を全うさせるまで世話ができる自信がありません。すなわち今いるチビが最後のペットだと決めているのです。そう思うとこのままではいけない、何とか長生きをしてもらわなければいけない、そのためには痩せさせなければならない、でも鳴かれるとつい餌をやってしまう、この矛盾した感情と葛藤しています。

ネコは元々4～5歳くらいから腎臓の機能が低下し、原因はよくわからないのですが、死因の第1位は腎不全らしいのです。といえばクリも腎不全で亡くなりました。そうした中、「ネコの宿命」腎臓病の治療法を開発、寿命が2倍に、最長30歳、というネットの記事が目に飛び込んできました。画期的な薬らしいのですが、資金不足で臨床試験が中止されていたところ、クラウドファンディングで資金を募り、わずか2週間余りで愛猫家から1億4,600万円の寄付が集まつたそうです。チビに長生きをしてもらうためにここは私も寄付をしようと思いましたが、待てよ、チビが30歳まで生きたら私たち夫婦の方が先に死ぬ可能性があるな、あと誰がチビを世話をするのか?と不安になりました。まあ子供3人のうち誰かがチビの世話をしてくれるだろうと思い直し、高額?寄付をする決心をしてクラウドファンディングのサイトにアクセスしたところ、すでに募集は締め切られていました。悔しいようなホッとしたような複雑な気持ちです。



院長／板本 敏行

入院生活に必要なレンタル物品 アメニティセットについて

コロナ禍で面会制限がある中、入院生活に困らないよう色々な物が揃っています。

衣類やタオル類は洗濯済みのものが定期的に補充されます。

小児用物品もレンタルできますので必要な方はご利用ください。

- (株)アメニティのスタッフは1Fロビーに平日8:30～16:00常駐しています。
- 外来や病棟にパンフレットを置いています。

